



未来を夢見て Season3

2022/4/18 No. 141

私たちが歩む教師という雪道

先週は、季節外れの温かい日が続いたかと思えば、週の中頃は前日に比べて10度近くも気温が下がるなど体調の管理が難しい1週間でした。小野小自慢の桜も満開になり、見頃を迎えましたが、この雨で早くも花びらが散り始めているようです。それでも雨に洗われた桜もまたきれいで、私たちの目を楽しませてくれました。



先週は春の交通安全週間（4月15日まで）。街頭では1年間を通して地域の方々が子どもたちの登下校を見守ってくださっています。小野小の子どもたちは毎日交通ルールをしっかりと守って登下校していますが、それでも時々、自転車の乗り方や急な飛び出しなどで地域の皆様からご心配の声を寄せられることもあります。交通ルールは毎日指導して下校させることが必要ですね。



さて、『小学校時報 4月号』の巻頭言で、全連小学校長会長の大字弘一郎先生が次のように書かれています

(前略) 教師をしていると、雪が深くこれ以上前に進めないのではないか、と思うことが何度もあります。苦しさや迷い、葛藤で次の一歩をどう踏み出せばよいか分からない、と感ずることも一度や二度ではありません。これが舗装されたアスファルトの道であれば、履き慣れたスニーカーでさくさく軽快に歩いていくことができます。けれど、アスファルトの道は、どんなに歩きやすくとも足跡が残りません。私たちが歩む「教師という雪道」は振り返るとそこに足跡が残っています。一步一步の歩みが大変であればあるほど、喜びや苦しみ、悩みや感動が大きければ大きいほど、その足跡は深く鮮やかなものとして残ります。(後略)

令和4年度、新学期が始まって学校が動き出しました。先生方に作成していただいた学年経営案・学級経営案を読ませていただくと、先生方の子どもたちへの温かい思いが伝わってきて大変うれしくなりました。今週も体調管理に留意しながら1週間よろしくお願ひします。

(文責：手代木)